

かつらぎ こういら  
葛木 香一 (明治 23 年・1890～昭和 39 年・1964)

本名中澤次良。函館十字街交番あたりで「丸高」という仕立屋を営んでいた中澤喜三郎・ツマの次男。後に叔父の山崎函館新聞支局長の縁で大野に居住。函館中学在学中から演劇好きで劇団に入る。

大正 6 年 (1917) 映画俳優になり、同 13 年「清作の妻」に浦辺糸子と出演し大いに評価された。

昭和 3 年 (1928) 「紅雪乱舞」、「裏切られ者」で主役

同 32 年 (1957) 「銭形平治捕物控」に出演

同 37 年まで 324 本に出演した。

みつおかりゅうぎぶろう

光岡龍三郎 (明治 34 年・1901～昭和 36 年・1961)

本名中澤喜一。葛木の弟で四男、兄の活躍に刺激され、大正 13 年俳優となる。

大正 14 年 (1925) 「かげぼうし」に出演

昭和元年 (1926) 「鳴門秘帖」主演

同 20 年 (1945) 「狐のくれた赤ん坊」阪妻主演、澤村アキヒコ (長門裕之) が子役で、光岡は馬方役で好演したという。

同 32 年 (1957) 「赤胴鈴之助」の出演

同 36 年まで 267 本に出演した。



無声映画 (サイレント) の大正時代から昭和初期には発声映画 (トーキー) になり同 30 年代まで出演した。無声映画の全盛期、二人のスターが函館に来た時は、大勢のファンと共に、楽団が迎える程の人気だった。

函館の常設映画館は大正 4 年 (1915) 頃になると 8 館を数えた。



平成 25 年 9 月 22 日 北斗市総合文化センター  
〈北斗市文化発掘企画特別上映〉

『御存じ右門 護る影』

出演 嵐寛寿郎、原健作、高山廣子、  
大河三鈴、山口勇、

葛木 香一、光岡龍三郎

1943 年 (昭和 18) 作、  
プリント 1952 年 (昭和 27)